

〔書言字考節用集時二候〕カクレドキ彼誰時本朝俗斥黎明云爾猶斥黃昏曰

〔萬葉集抄二十〕かほたれどきとは、かれはたれどきと云也、ゆふべをたそかれどきと云がごとくに、曉をかほたれどきといへる也、

〔萬葉集二十〕二月○天平勝七歲十四日下野國防人部領使正六位上田口朝臣大戸進歌數十八首○中

阿加アカ等キ岐ノ加波カハ多例タリ等キ枳爾キニシ之マ麻加マカ枳キ乎コ己ニ枳爾キニシ之マ布禰フヂ乃ノ他タ都ツ枳キ之マ良ラ受シ母モ、

〔類聚名義抄見〕未明アケホ

〔饅頭屋本節用集時安〕曙アケボ

〔增補下學集時上一〕未明アケボ 平明アケボ 早旦アケボ 凌晨アケボ

〔書言字考節用集時二候〕晨明アケボ淮南子日拂於明發文選註初 凌晨平明未明未明並同、 曙文選註且明

會明同舊事紀

〔倭訓栞前編二〕あけぼの 曙をよめり、詩經に明發をよみ、日本紀に會明、味爽、古事記に開明など

書り、明んとして物のほのかに見ゆる時也、よてほのぐとあかしの浦などもつゞけり、歌の

題に春曙といふ時は、花などもまだ咲出ぬむ月の末より、二月の初めのほど成べしといへり、

〔日本書紀崇神五〕四十八年正月戊子、會明アケボ兄豐城命以夢辭、奏于天皇○下

〔日本書紀仁德十一〕三十八年、俗曰、昔有一人、往兔餓宿于野中、時二鹿臥傍、將及鷄鳴、牡鹿謂牡鹿曰、○中

時宿人心裏異之、未及味爽、有獵人以射牡鹿而殺、

〔日本書紀雄略十四〕八年、高麗諸將未與膳臣等相戰、皆怖○中、會明アケボ高麗謂膳臣等爲遁也、悉軍來追、乃縱

奇兵、步騎夾攻、大破之、

〔枕草子〕春はあけぼの、やうくゝゑろくなりゆく、山ぎはすこしあかりて、むらさきだちたる雲

のほそくたなびきたる、